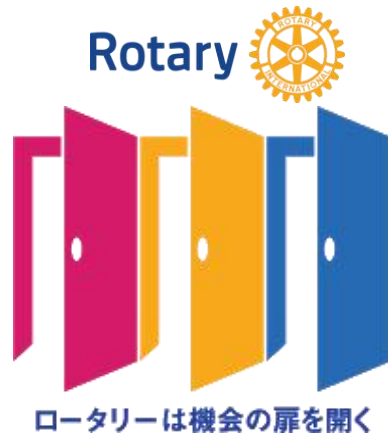


相模原中 R C 会報

第 2045 回例会

7月 28日 No.4

会長 佐々木 敏尚 幹事 小崎 直利



●友好クラブ

韓国・龍仁ロータリークラブ
国際ロータリー第 3600 地区
台湾・台中文心ロータリークラブ
国際ロータリー第 3461 地区

●姉妹クラブ

千曲川ロータリークラブ
国際ロータリー第 2600 地区

●提唱インターアクトクラブ

光明学園相模原高等学校



卓話「コロナ禍の諸隈 武」

諸隈 武

今回の卓話は、コロナ禍という状況になりました。自身の現状と自社の現状をお話したいと思います。

まず、自身と家族の紹介をしたいと思います。私は昭和 48 年 5 月 2 日に相模原で生まれました。生まれてから 24 歳くらいまでは相模原の清新に住んでいましたが、それ以降は西橋本に住んでいます。

趣味はドライブ・読書・ゲームです。コロナ禍になるまでは毎週末、ドライブで家族と遊びに出かけていましたが、最近はコロナの影響もあり、あまり出かけていません。読書は漫画も多かったりしますが、意外と普通の小説なども

読んでいます。小説などは年間で 40~70 冊位見ています。自粛期間中からは、特に小説を読む時間が多かったです。

次に家族構成になります。妻と二人の息子です。自粛期間中は子供二人とも自宅にいたので、妻も大変そうでした。上の子は、優しい子に育ってきてくれたので、あまり手が掛からなかったみたいですが、下の子が次男坊全開で暴れまわっていたため、月~金の昼は妻が面倒をみてそれ以外は二人で面倒を見ている感じでした。

私の会社についてです。私が経営している会社の有限会社諸隈製作所は、私の父が昭和 34 年に東京都大田区で創業しました。昭和 44 年に、

今の場所でもある相模原に移転し、以来その場でやっております。



私は19歳の時に入社し、約30年くらい勤めております。現在の社員数は16名です。私が入社した時は7名でしたので、だいたい倍の社員数になっています。

業種としましては、最初は旋盤工としてスタートしたらしいのですが、顧客からの要望で溶接をやり、板の切断・丸めなどを行わなければいけなくなったことなどから、今の形態へと移行してきました。

次に業種の内訳になります。現状ではだいたい自動車(特にトラック部品)が3~4割占めており、残りが橋梁資材部品・半導体設備装置部品・電車車両部品が各々2割くらい、残りが細々とした仕事となっております。

○自動車部品



○電車車両部品



○橋梁部品



○半導体設備装飾部品



以前は柱になる顧客が、自動車・橋梁・電車と3本しかありませんでしたが、4年前くらいから元々の顧客であった半導体の製造装置関連の顧客

の量が増加したこともあり、会社の安定化に繋がってきました。

現在のコロナ禍での売上状況なのですが、去年の1月の売上を100とした場合での去年と今年の売上比率のグラフになります。自粛期間が始まるまでは、ぼちぼちという感じでしたが、4月くらいから自動車関係の売上が4割ほど落ちているのもあり、多少厳しい状況でもあります。5月などは営業日数が少ないことなどもあり、落ち込みが激しかったです。

最後に、私が経営をしていく中でいつも心にとどめている言葉をお伝えします。

あり得ることは起こる
あり得ないことも起こる。
思いつきもしないことも起こる。

というふうに考えなさいという言葉です。これは、失敗学の権威でもある畑村洋太郎先生が東日本大震災の後に、政府福島原子力発電所事故調査・検証委員会での検証発表の時の発言でした。この言葉は経営においても活用でき、今回のコロナによる影響などはこの思いつきもしないことも起こると言うことに当てはまるのではないかと思います。

当然、すべてに対応出来るわけではないのですが、経営者としては今回のコロナにおける状況のような事も起きると言うことも考えなければならぬですし、何よりも今のような厳しい状況を受け止める心が無いといけないと思っています。

私もロータリーに入会して4年目になります。諸先輩方と接することにより、多少はこの心も育ってきたと思いますが、今よりも大きな心をもって、様々な活動を行っていけるように頑張りますので、今後ともよろしく願います。



●佐々木会長、小崎幹事

- ①皆さん、こんにちは！第2波が来ている最中ですが、本日もZoomでの出席を受付けております。
- ②米山奨学生の邵さん、ようこそ。
- ③本日卓話の諸隈会員、当クラブ初のZoom配信卓話、よろしく願います。

<次ページに続く>

最後の部分だけ抜粋してご紹介します。この原稿は1972年の京都RC会報に掲載されたものです。『昭和9年5月、第6回第70区大会が名古屋で開かれた。その席上、時のガバナー村田省蔵氏（当時大阪商船の社長）から「従来のロータリーソングは英語ばかりであるが、日本語の歌があっても良いのではないか」との提案があり、満場一致可決された。（中略）

昭和10年、区大会が迫ると大会の仕事はとても忙しく、ロータリーの歌のことなんかすっかり忘れてしまっていたのであるが、私の歌は当時の東京音楽学校のピアノの先生で、東京のロータリアン萩原栄一氏が作曲され、5月5日祇園歌舞練場における第7回区大会には、東九邇宮殿下の台臨のもとに盛大に開かれ、席上、萩原氏自らタクトを振って800人の出席者の大合唱により、この「奉仕の理想」は華々しくデビューしたのであった。

それから、わが国はようやく戦時色が濃厚となってきた。そのため「御国に捧げん我等のなりわい」はどこのクラブに行っても好評であった。しかし、今や我が国は平和国家となったのだから、「世界に捧げん我等のなりわい」と訂正したいと思う。』

上記の原稿は1971年当時、78歳であった前田さんがご自宅で病気ご療養中に、病床において自ら執筆されたものということでした。

＜米山奨学生 邵佳慧さんよりご挨拶＞



中国遼寧省から来まして、青山学院大学の4年生です。米山奨学生になり、いろいろな国の人と友達になったり、異文化を学んだり、これからも勉強を頑張りながら、交流もしていきます。

＜委員会報告＞ (概要にて)

○ロータリー財団

横江委員長

本日、小野会員より財団に1,000ドルの多額の寄付を頂き、感謝致します。

先週もお願いしましたが今年度は財団とポリオ寄付で、計27,000円を目安にして頂きたく、宜しくお願い致します。



○奉仕プロジェクト

金沢委員長

先週のクラブ協議会で地区補助金事業についての説明不足の点もあり、本日資料をお配りしました。実施日は来年3月になります。

この資料は小崎会員に案としてデザインして頂いたもので、ご参考下さい。



この他に、麻布大学で「ホース（馬）セラピー」も実施予定です。コロナの状況で、体育館での事業が無理な場合、外でのホースセラピーだけでも行いたいと思っています。

令和2年 ~~10月11日~~ 令和3年 **10月11日** (Sun.)

日時: ~~10:30~15:30~~ **10:30~15:30**

場所: 相模原市立けやき体育館
(※けやき体育館およびウェルネスがみはらの駐車場をご利用ください。)

当日タイムテーブル

時間		
10:30~		
11:30~		
12:30~		
13:30~		
14:30~		

対象: 障がいのあるお子さん、きょうだい、家族、お友達、楽しく遊びたい人みんな
企画: スパイダー・スイング・ムーブメント・電動車いすボーリング・人力車 他
当日スタッフ: 子どもたちと一緒に楽しいことをしたい理学療法士・作業療法士・保育士・看護師・保護者・学生
お問合せ: 相模原市中央区緑が丘2-20-10 ビバリーヒルズ1F サリーブーす内
TEL: 042-704-6536 / FAX: 042-704-6537



- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| ・川合 貞義会員 | ・丸子 勝基会員 | ・金沢 邦光会員 | ・阿部 毅会員 |
| ・豊岡 淳会員 | ・櫻内 康裕会員 | ・取住 悦子会員 | ・早川 正彦会員 |
| ・横溝 志華会員 | ・佐々木敏尚会員 | ・田後 隆二会員 | ・伊倉 正光会員 |
- (2020年3月～5月の休会期間を除く)

報告事項

1. 第2780地区ガバナー事務所より

①第2回インター・ローターアクト委員会ご案内

下記にて開催致しますので、提唱クラブにはご出席をお願い致します。尚、委員の方が出席できない場合は、代理者のご参加をご手配下さい。

日時：8月8日（土）13～15時

場所：第一相澤ビル8階

例会プログラム

8月 4日卓話「人生100年、まだ78才」

担当：丸子 勝基会員

定例理事役員会

11日例会取止め

18日クラブフォーラム「IMについて」

担当：櫻内 IM実行委員長

例会記録

点 鐘 12時30分

場 所 「敦煌」

司 会 豊岡 淳SAA

斉 唱 ロータリーソング

「それでこそロータリー」

ソングリーダー 黛 裕治会員

ゲスト 邵 佳慧さん（米山奨学生）

出席報告

会 員	出席(出席対象 22 名)	事前メイク者
29名	21名	0名
欠席者	本日の出席率	修正出席率(7/14)
3名	87.5%	96.0%

会長の時間

●諸隈 武会員

①皆出席の皆様、おめでとうございます。

②本日の卓話、よろしくお願ひします。

●川合 貞義会員

昨年度も一年間、皆出席することができました。健康に気をつけて、今年も頑張るつもりです。よろしくお願ひします。お酒も少し減らそうと思っています。

●藤本 恵介会員

諸隈会員、久しぶりの卓話ですね。宜しくお願い致します。

●小野 孝会員

諸隈さん、卓話楽しみにしています。

●金沢 邦光会員

梅雨が明けませんねえ、カビが生えそうです！

●最住 悦子会員

諸隈さん、卓話楽しみにしています。

●黛 裕治会員

①前年度、皆出席の皆様、さすがです。私も今年度こそは?!

②諸隈さん、卓話楽しみです。

●豊岡 淳会員

諸隈さん、卓話楽しみです。なかなか明けない梅雨空を吹き飛ばして下さい。

●櫻内 康裕会員

①本日卓話の諸隈会員、宜しくお願いします。

②なかなか梅雨が明けませんが、熱中症に気を付けて下さい。

●阿部 毅会員

①本日の卓話、時に適ったテーマで楽しみです。独演会ですので、宜しくお願いします。

②米山奨学生の邵佳慧さん、ようこそ。大変な時期ですが、注意して頑張って下さい。

●伊倉 正光会員

諸隈会員の卓話、楽しみにしています。

●横溝 志華会員

①前年度皆出席の皆様、一年間ありがとうございました。

②諸隈会員、卓話楽しみにしています。

③ミニ懇親会をしました。お釣りをスマイルします。



本日の例会でも、Zoomによるオンライン中継を行なっています。先週の例会で初めてZoomによるオンライン中継を行ないましたが、パソコンのバッテリーが切れたり、インターネットの接続が切れたりしました。また、Zoomで参加していただいた藤本会員の説明では、会場からの声が聞こえづらい、会場の様子がよく分からないというご意見を頂きました。

このような先週の教訓をできるだけ生かそうと考えて、本日は先週とは違う方法でZoomにアクセスしています。試行錯誤の途中ですが、できる限りスムーズにオンライン中継ができるように改善に努めてまいりたいと思いますので、会員皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

理事役員会では新型コロナウイルス感染防止の観点から、直接顔を合わせる方法による例会をできる限り継続しつつも、Zoomによるオンライン出席を認めるべきであるという意見で一致しました。

そのため、Zoomにより外部からオンラインで参加して頂いた場合でも、正式に例会の出席として認められますので、諸々のご事情で例会場にお越しになれない場合には、ぜひZoomによるオンライン参加を行なってください。

尚、規則上の問題がないかどうか調べましたが、もともと標準定款の第10条第1節で「会員がある例会に出席したものとみなされるには、その例会時間の少なくとも60パーセントに直接、電話で

またはオンラインで参加すること」と記載され、オンライン参加が認められていますので、Zoomによる出席は規則上も問題がないと考えております。

今後も当面の間は、例会の数日前にEメールとLINEにて、Zoomの招待状をお送りする予定です。先週と今週は現在、事務局で把握している会員のメールアドレスと、小崎幹事が把握しているLINEのID宛に、Zoomの招待状をお送りしています。

もし、メールアドレスやLINEのIDを持っているのに届いていないという方や、届いてはいるけど、違うアドレスやIDに送ってほしいという方は、小崎幹事か私宛にご連絡をお願い致します。

【ロータリーソング】について

☆ロータリーソングの起こり

ロータリーの100年を越える歴史において、「歌を歌うこと」を始めた人物は、5番目にロータリーに入ったハリー・ラグルスという方でした。

1907年、ポール・ハリスがシカゴRCの第3代会長になった頃、ロータリーの目的は「親睦」か、「奉仕」なのかを巡り意見が対立し、クラブ内が割れ、出席率も低下する事態が起きました。

「親睦」か「奉仕」かの大論争でクラブ内がギスギスしていた時、クラブの雰囲気や和らげようと考えたハリー・ラグルスが「諸君、歌を歌おうではないか」と言って音頭をとって歌い出したのがロータリーソングの始まりと言われています。

ラグルスが音頭を取ったのは、当時流行っていた歌だったようですが、歌を歌うようになって以来、クラブの団結は甦り、これ以降、例会における合唱はロータリーの伝統となったそうです。

☆日本のロータリーソング

ロータリーソングは現在、世界で140曲以上あるそうで、日本のロータリーソングで最もよく歌われ、かつ最も古い曲は「奉仕の理想」と「我等の生業」です。この2曲は昭和10年（1935年）京都での地区年次大会において、日本語ロータリーソング入選作として発表されたものです。この地区大会で1位となったのが「奉仕の理想」でした。皆様ご存知の歌詞は以下のとおりです。

『奉仕の理想』

作詞：前田 和一郎（元京都RC）

作曲：萩原 英一（元東京RC）

奉仕の理想に 集いし友よ

御国に捧げん 我らの業

望むは世界の 久遠の平和

めぐる歯車 いや輝きて

永久に栄えよ 我等のロータリー

この「御国に捧げん 我等の業」という歌詞が、ロータリーソングとして不自然に感じられる方もいるかもしれません。ロータリーは世界平和を目標にしていますので、御国に捧げるという表現は、国粋主義の香りがしないでもありません。このような不自然さの理由を理解するには、この歌が発表された1935年の時代背景を知る必要があります、ご存知の通り、太平洋戦争のわずか6年前です。

この曲の作詞をされたのは、元京都RCの前田和一郎さんで、前田さんの当初の原詩では「御国に捧げん」ではなく、「世界に捧げん」だったそうです。しかし当時のガバナーがこの歌詞に反対し、「御国に捧げん」と変えなければ、当選は無効であると宣言したため、前田さんは泣く泣くこれを承諾したとされています。

これは推測ですが、当時の時代背景からアメリカから発祥したロータリーは、世間から冷たい目で見られていたことが予想され、歌の発表された5年後の1940年には、日本のロータリーはR Iから脱退し、その翌年に太平洋戦争が始まっています。

当時のガバナーが「世界に捧げん」だった歌詞を「御国に捧げん」と変えたのは、日本のロータリーの組織を守ろうとしたガバナーのやむを得ない決断だったのかもしれませんが。

戦後、1949年に日本のロータリーはR Iに復帰しましたが、「奉仕の理想」の歌詞は「御国に捧げん」のまま歌われつづけ、現在に至っています。

この曲を作詞した前田和一郎さんが生きていたら、どのように感じているかと思い調べたところ、前田さんが実際に執筆された原稿がロータリー情報ハンドブックに掲載されていました。➤